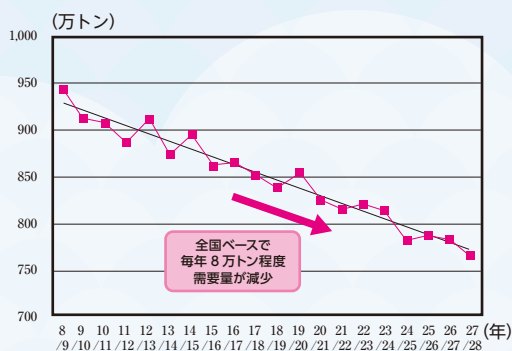


飼料用米の取組が広がり、米価は回復基調です。 米価安定のためには、みなさんの協力が必要です！

食生活の変化や高齢化等により、米の需要量は全国で毎年約8万トンも減少しています。
(8万トンは千葉県の米生産量の約3割に相当)

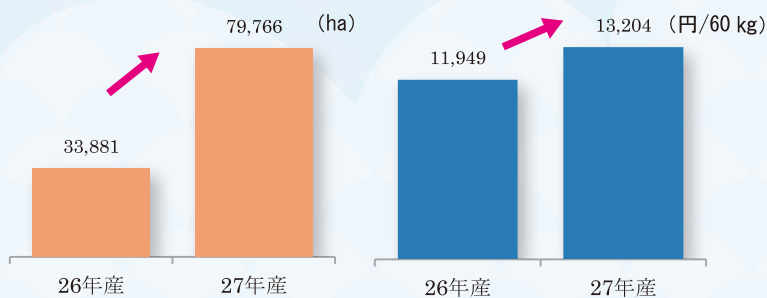
生産量が需要量を上回り在庫量が増えると、米価の下落を招きます。

米価安定のためには、これまで飼料用米に取り組んでいなかった方の協力が欠かせません。



米の需要量の推移

27年産は全国的に飼料用米の取組が広がり、米価は回復基調です。(28年産も同様の傾向)



全国の飼料用米取組面積

米の相対価格の推移
(翌年7月の全銘柄平均価格)

飼料用米をおすすめする理由
～どなたでも取り組めます～

- 既存の機械や施設をそのまま使えます。
- 国や県の支援策が受けられ、主食用米と同等以上の安定した収入が確保できます。(裏面参照)

飼料用米は、品種の選択が重要です。
経営にあった品種を選択しましょう！

- 「アキヒカリ」、「夢あおば」等の多収品種で増収することで最も収入額が多くなります。
- 主食用品種であっても、多収が望める品種(「ふさこがね」等)で区分管理方式により取り組むことで、収入額の増加につながります。

問合せ先

ご不明の点等がございましたら、最寄りの各機関へお問い合わせください。

- ◇ 地域農業再生協議会又は市町村農政担当課
- ◇ 千葉県農業再生協議会 (千葉県 生産振興課内 043-223-2891)
- ◇ 千葉県 各農業事務所 企画振興課

裏面へ

収入額の試算イメージ (経営の4割を飼料用米とした場合)



※1 飼料用米への助成金

- ① ふさこがね、コシヒカリ等の主食用品種で取り組む場合の助成金 6.1～11.1 万円 / 10a (基準 8.6 万円 / 10a)
- ② アキヒカリ、夢あおば等の多収品種で取り組む場合の助成金 7.2～12.2 万円 / 10a (基準 9.7 万円 / 10a)

※2 追加助成金

- 市町村助成：市町村により支援策の有無や内容、要件が異なります。
- 耕畜連携助成：飼料用米の稲わら利用 13,000 円 / 10a
- 多収品種の団地化：5ha 以上の団地化 4,000 円 / 10a

※助成額は平成28年の例

飼料用米に対する疑問にお答えします。

Q 飼料用米への支援はこれからも継続されるか？

A 国は、「新たな食料・農業・農村基本計画(平成27年3月31日)」において、飼料用米の生産拡大を位置付け(平成37年の努力目標110万トン)、その確実な達成に向け、水田活用の直接支払交付金などの必要な支援を行うとしています。

Q 飼料用米の取組が広がっているが、需要は大丈夫か？

A 飼料用米は家畜のエサである輸入トウモロコシの代替として利用され、平成28年産の飼料工場や畜産農家の需要量は約120万トンあります。(平成27年産の飼料用米生産量42万トン)また、将来的な需要は450万トンと試算されています。

Q 多収品種の種子はどこで入手するのか？

申込はお早めに！

A 知事特認品種「アキヒカリ」「初星」は農協・集荷業者に申し込んでください。「夢あおば」「モミロマン」等の(一社)日本草地畜産種子協会が扱う品種については、現在、予約を受付中です。申込は市町村に問い合わせください。